

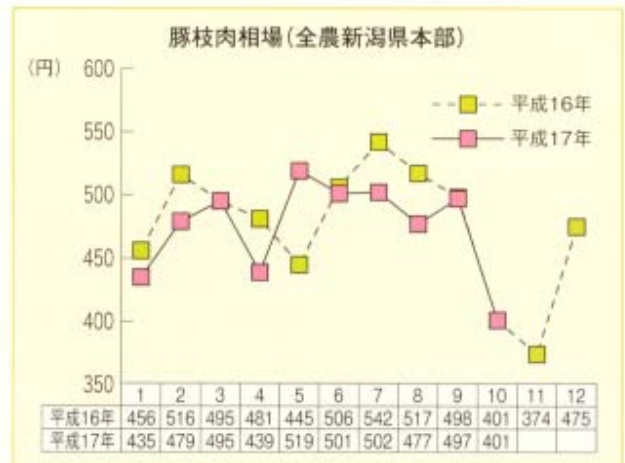
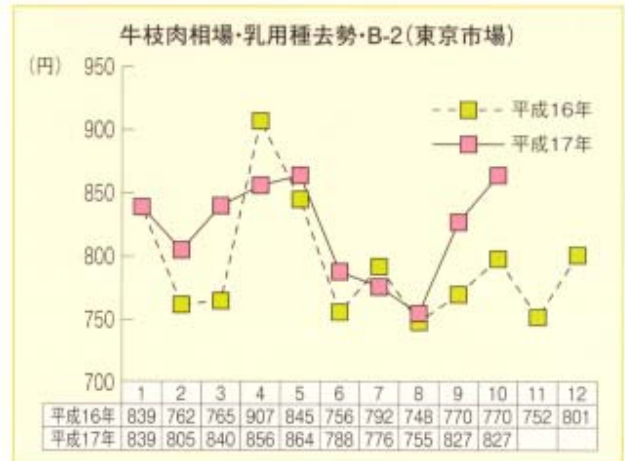
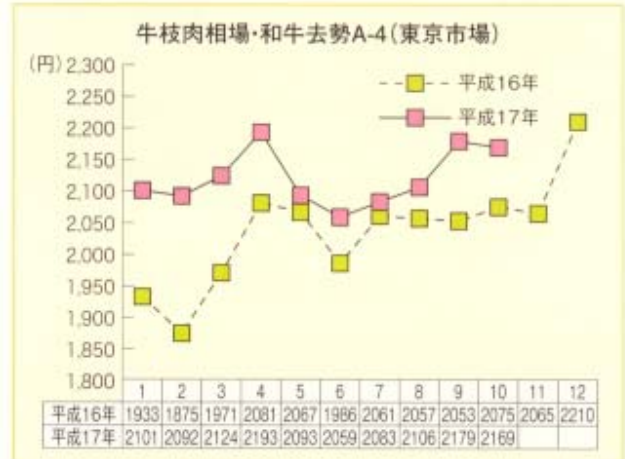
「にいがた和牛感謝の集い」が開催される

にいがた和牛推進協議会は、新潟県、新潟県畜産振興協議会、全農新潟県本部と共催で第50回新潟県肥育牛求評共励会を記念して、「にいがた和牛感謝の集い」を10月13日に東京都内で開催しました。当日は、にいがた和牛推進協議会会長の泉田県知事を始め県内関係者の他、東京食肉市場関係者買参人を招き、総勢100人が参加する盛大な催しとなりました。

第1部は「にいがた和牛の現状と今後の課題」をテーマに事例紹介と講演が行われました。事例紹介では、東日本信越くみあい飼料株式会社副審査役が、にいがた和牛の脂肪酸組成についての分析結果を報告し、配合飼料の製造面から品質向上を進めていきたい等紹介しました。JAにいがた岩船・成田肉用牛部会長からは村上牛の肥育技術や銘柄化推進活動の経過等の紹介がありました。講演では「にいがた和牛に期待して」と題して中央畜産会・南波常務理事がにいがた和牛増頭のために、素牛安定確保の重要性と繁殖技術、枝肉データの活用やその手法についてを基調講演をされました。また、第2部の「にいがた和牛交流の夕べ」では、泉田会長がパワーポイントを用いて、にいがた和牛を紹介したのち、交流会において、にいがた和牛振興に向けての情報交換や意見交換が行われました。



畜産物市況



編集後記

「食の安全・安心」が関心の的になっている最近の情勢であります。当協会では、生産者、流通関係者、学校給食関係者や消費者との交流会を平成15年度から3ヶ年計画で取り組んできました。趣旨は消費者の安全・安心への関心の高まりに対して、畜産物の生産過程を明確にすることや、流通・消費に至るまでの正確な情報の提供であります。本年度は鳥インフルエンザの発生に関連した話題提供や県内でも大型酪農経営のあじさい野牧場、ヤスタヨーグルト工場等の見学を実施し意見交換を図りました。正しい情報や生産現場や生産工程にふれることで食の安全に対する不安が取り除かれたとの声もお聞きしました。畜産物に対する理解は地道な積み重ねから生まれるものなのだと改めて感じております。本県においては食品安全条例が制定されアクションプラン等も示されております。こうしたことが食料の大切さや農業の活性化の弾みになればと思います (花田記)